

プロジェクト名：ラオス国メコン河沿岸地域小規模農村環境改善計画調査

(調査期間：1998年11月～15.0ヵ月、農民支援)

調査背景

ラオス国においては、食糧自給、輸出振興、焼畑農業の抑制、地方振興、インフラ整備、人材開発等が国家政策における優先目標となっている。また、「2020年に向けた農業開発ビジョン」の主要課題の一つに食糧増産と自給達成が掲げられている。そのため、1995/1996年の洪水発生後、ポンプを含む灌漑事業が促進されつつある。これらの状況に鑑み、メコン河沿いの平野部に存在する米作地帯を対象として、農民組織化と農民金融で可能な規模の灌漑施設の整備による乾期稲作の導入や伝統農業の改善による営農の安定を目的とした農業・農村開発計画に係るM/Pの策定と優先地区におけるF/S調査を実施した。

調査概要

調査対象地域内の河川はメコン河の支流であり、水位および水量ともに年変動が極めて大きい。従って、洪水被害による不安定な農業生産を始めとして、インフラ整備の立ち遅れ、ならびに限られた制度金融や農民支援が当地域の開発制限要因となっている。そこで、参加型手法による開発計画の策定およびセクター横断的な支援体制による拠点集中型の開発計画を策定した。実際には、農民と支援サービスの接点、行政側のアンテナ、農民組織のファシリテーターとして機能するタスクフォースチームの導入を中心に検討した。こうしたセクター横断的なチームの活動による農民側ならびに行政側の実施能力向上のための手法をはじめ、資金調達やインフラ整備といった支援体制強化のための現実的な実践手法を提案している。

担当事項

- 対象地域の地域農業、農業支援、農民組織、灌漑、水管理に関する情報収集及び解析。
- 農業普及・試験研究を含む農民支援体制の現状把握と支援業務実施能力の解析。
- 農産物流通の現況調査と流通システム改善に係る計画の策定。
- 持続可能な農業計画の基本となる現地適正技術に基づく土地利用及び営農計画の策定。

